

芽をつけた年では、2月下旬にもピークが現われています。飛散開始時期については、患者の発生時期を予測する上で、耳鼻科医にとって関心が高く、いろいろと検討されています。1月1日から気温や最高気温の積算値を用いて予測している所もあります。私達の所では、東邦大学薬学部佐橋紀男氏らと協同研究で、気象鉄塔を用いて、花粉の鉛直方向への輸送過程や花粉の測定法の検討、測器間の比較測定など行ってきましたが、それらについては次の機会に御紹介したいと思います。

6. あとがき

50年代の花粉量の増加、特に57年の大量の花粉によって花粉症の花粉への関心が高まってきましたが、この花粉量の増加が一時期な現象なのか、60年代も同じように続くのか、また、その原因が異常な気象によるものか、人為的な杉林の無整備、放置による杉花粉源の増大によるものかなどについて、測定値に信頼のある習志野の資料に基いて検討し、推論できる2、3の事柄を御紹介しました。花粉資料は1年に1試料の積み重ねで得られる資料のため、十分な試料数を得るためには多くの歳月を必要とします。不十分な試料数での解析が果たして正し

い結果であるかどうかは今後の調査を待つしかありません。

最後に、この調査のきっかけを作っていただいた元気象研究所応用気象研究部長村山信彦氏、第3研究室長藤井幸雄氏、第3研究室研究官木藤照子氏に深く感謝いたします。また、貴重な資料の提供、御指導、御助言をいただいた東邦大学佐橋紀男氏に心から御礼申し上げます。

参考文献

- 荒木英齊, 1959: 生気候に関するシンポジウム, 天気, 7, 7-16.
 長野 準ほか, 1978: 日本列島の空中花粉, 北陸館.
 上野実朗, 1978: 花粉学研究, 風間書房.
 斎藤洋三ほか, 1980: スギ花粉症の気象, 気象, 6, 6-9.
 篠原久男, 1980: 北関東におけるスギ花粉症発症の気象的予知, 研究時報, 32巻別刷, 118-119.
 根本修ほか, 1983: 松花粉の鉛直分布, 生気象学会誌, 3, 210.
 ———, 1984: 花粉の飛散の気象条件, 生気象学会誌, 3, 214.

日本気象学会誌 気象集誌

第II輯 第65巻 第6号 1987年12月

松田佳久・加藤輝之: 熱帯域の加熱に対する地球大気の線型応答——惑星の回転の効果

林 良一・宮原三郎: 熱帯季節内振動の三次元線形レスポンスモデル

住 明正: 乾燥した大陸と東西方向に一樣な海面水西を持つ海洋という境界条件の下で simulate された対流活動の特徴

永田 雅: 冬期日本海上の収束雲帯の構造について (予報実験)

二宮沈三・栗原和夫: 梅雨前線帯中間規模対流系の予報実験

新野 宏: 海陸風循環の線形論

藤部文昭: 平日と週末の都市気候差

1. 東京の都心における気温その他の気象要素の時間的変動

武田喬男・劉 国勝: 人工衛星 Nimbus 7 のマイクロ波放射計 (SMMR) データによる凝結水量の評価——新しい評価法および北西太平洋域の雲への適用

山内 恭・鈴木一哉・川口貞男: AVHRR 赤外線波長データによる南極域の雲の検知

菊地勝弘・吉田裕一: 地表面近くのサブミクロン・エアロゾル濃度の鉛直分布

遊馬芳雄・菊地勝弘: 雲底下でのイオン捕捉による降水粒子の帯電機構の数値実験

遊馬芳雄・菊地勝弘・谷口 恭・藤井智史: 下層大気中の大気電位傾度と降水電荷の同時観測システム

要報と質疑

柴田 隆・前田三男・宇都宮彬・溝口次夫: 紫外線ライダーとオゾンゾンデによるオゾン同時観測

伍 培明・小野 晃・岡田菊夫: 都市大気における硝酸イオンを含むエアロゾル粒子の混合状態について